

讚岐國

補陀洛山清淨光院志度寺略緣起



讚州志度寺略縁起

志度寺は弘治五癸卯壬子年創在るは神地流
 觀音菩薩の御書 推古天皇の勅教在原始乃
 蓮五より所傳也其の法衣本は 德體天皇十一
 年に近江守高澄の清教之庵邊山白蓮を名し流
 七十年洲名に傳ひ 推古天皇五年此以高浦乃
 名に流也其の御書亦に蓮子に流名は奇なり
 のみなりありか此本に瑞雲ありと十一面觀

吾に遊んては亦ふそは旬月成るるを子承之
いこく我は佛障より佛障なりと佛障なりと佛障なりと
の二日ありらに子承より佛障なりと佛障なりと
いさるに佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと
之より佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと
佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと
ら子承より佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと
いこく佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと

又七目のうちに堂建立し一年くかたは遊遊いこく
我字は本師の玉玉丸に佛障なりと佛障なりと
いこくいこくいこくいこくいこくいこくいこく
佛障なりと佛障なりと佛障なりと佛障なりと
天智天皇御宇に大職冠儀是れ且女大座
背乃玉玉丸に遊遊いこくいこくいこくいこく

河内浦にをいづ候に忽風ぬた流に取被五海人妻
毛龍神のふ為るおと知く唐伎がれ玉枝海申に入
まりららすら大方りも枝指かしく玉枝五合をぬそ
のら大猷冠録是れ清子沈海云玉枝さくまき一幸
枝款さ 天保天を九年のふ海浦に下つたなひく
海人く費つと二年に及んく一子産まづりそ時海浦
唐茶と号も位くふけ清子枝唐茶の大信と名け
らるる時に沈海云海人にのりぬんく沈龍文に合

玉枝五合一ぬき一先は葉二の子よりとよもま
初見沈嬌子にたんと約一に人は海人位ひすを
ソラ親者にぬく誓ひく龍歌に今がれ大言の眞意に
位く終に玉枝五合よりそのり沈海人枝五合り小治に
お祈一初に玉枝五合ゆる治のり新捧治と名けり
海人はびるしくわわのきは死骸とは南を道場
の初に理免位初に堂堂枝葉三一を内ひく終に
かて玉は南の真意を枝かしの肩肩に背初一とゆふ

天武天皇九年、の京に保正天皇の御宇に九十六五年

持統天皇八年の御宇に保正天皇の御宇に九十六五年

あまのむすひ高道滿の地處よりし母海清の聲が

物なき故他遠し一は基高基のさくし一は花合

のほの枝か金くかひ宝是は花十種をまし一高依藍

のほのりにおく先ゆくは千巻の石塔は建立し

母堂の業提を初くし先くふふと、まに今に十月

十七日より廿二日迄く毎年海人のほの志ごとをし海合

は美室生女とまに 持統天皇八年よりまに

ゆく千又十年始 桓末天皇延暦のおゆ

の白枝とりふもれ死し一は沃魔の魔意におま

のしゆくくゆあ勢にをいく一雲建立の悲い

しましひは雲に歸身向く南嶺の島大日本國

漢政を志及道場と建立をるし一ふは観音法

界の長崎すから我氏子をり白枝勅令に致し

まをくおれまは道に御奉を福き、女張結

きつふかばえく女にゆふあそびいそぐ我は穢品
のこの文は一蕩廢官といふも新大富家乃婦言
といふも死くは法にすん合れくがふく
まはうくしこ白杖並全絶くまにた
かづ作教はふれ女も婦路に導いたまふか
まかばおんく志度道場坂道言んとも
こま坊主放棄まくぬ人救生く更婦とわ
堂亦坂建ませりそれ流中島の阿南亦に二人の

穢障ゆら百教善道といふも百教は法も
に清くは善道は善子の穢もくとも
今穢くは信善に過るらと教かきめ
つかり百教はは會に在るとも心根教の家
に婦まふまのゆく唯善道一人快く救生せん
てふは乃の婦くたらすら頭ら下は地力く
るわぬ善道まきいとく黄昏に及くも路
るかこといひくは善道いとくわまはる自恥

勢よく望ましく高き者故に多く年支つて

るにけに高き万農の池に金たまわれと著る

いとあられに争ひいかに池に金とぬきは替り

つと大地とちかりいせくいそく満る思ひし

我眼のまばらむと報せん藤に金とひ酒故違つ

責をく破るもあしといつてつとよ著る時

教のこく一教者もほげんはほりてのら

かまはしあつと探家より字八極(一)

くるとい、延暦元年より高年ゆ凡九百四十年

一條院字長徳元年に洛陽東洞院の知行を子

立御門院字建仁元年山城

入道 文保元年より

七肝要は白杖にかかるといふは筑王乃勅令

けりく獲つと高きれ依藍(一)

けりく獲つと高きれ依藍(一)

けりく獲つと高きれ依藍(一)

心人に別に述記あり乃と南院縁起七抄乃六卷

かくのこし

縁起並圖畫筆者事

一 清原本縁起

兼元上人

一 玉送玉取

相良武仁入道宗効

一 白杖多子

世尊の孝行序の

一 南無善南

兼元上人

一 松竹多子

兼元上人

一千歳丸

兼元上人

一 阿入道

相良心仁

一 播磨高遠

右土佐侍

焰魔王像畧縁起

昔年高野にいりて阿とまてく 浄地を念の凡

つり一丈病影く死しと 梵王に返り由王のこゆる

く 湯海にばあに帰るへし 我れめに志度遠隔

乃系論に書 我様へ 我長に書き 傳致 到り 安

とや見りつゝのてむいふこととさばりしはみだり
く除門にあつたる人河かたは勅命給ふも
愛さじのこくとく後了二所かたのんく主像も
造る一平んぬいよあまのそる像も
室通に十一而れ備けりてきたるよとむ心あり
けか奪る好ふの橋中又ハ室抱るとまると
と繁張怒と述記ふり乃と

昔享保十六亥年正月吉良辰

